

密閉空間に促されている「換気」について

新型コロナウイルス対策として重要なのは、
飛沫感染、接触感染を避けることで、飛沫核除去に「換気」は有効とされています。

換気はどのように行う 窓を開けて行う「自然換気」とファンなどを用いて行う「機械換気」

1. 窓を開けて行う「自然換気」

窓がある建物や乗り物では、積極的に窓を開けて外の空気を取り込むことが有効。



換気

2. ファンなどを用いて行う「機械換気」

窓のない部屋などでは、機械換気で換気ができます。

オフィスビルなどでは、換気できる空調設備で室内環境を維持していますが通常は省エネルギーを考えて外気導入量を絞って、必要な換気量を満たす運転をしており外気を多く取り入れると冷暖房効率は悪くなるかもしれないが、業務に支障がない範囲で外気導入量を増やすなどの運用を工夫することで、換気の効果は高められます。



機械換気する際は、「給気口や排気口が塞がれていないこと」が大切です。
換気ファンを運転して給気口が閉まっているか、物などで塞がれていないか確認しましょう。

※注意 換気をするだけで感染リスクを十分に低減できるというものではありません。

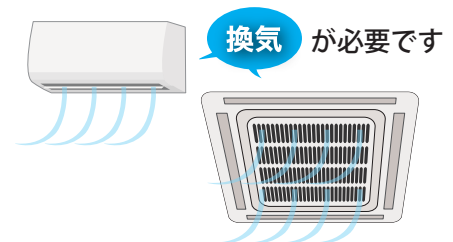
Q & A エアコンや空気清浄機の換気効果は？

家庭用エアコンやパッケージエアコンは、**空気を循環させるだけで換気を行っていません。**
換気効果を求めるなら、窓を開けたり、換気システムの運転を行う必要があります。



一般的な空気清浄機では、機械を通過する空気量が部屋の空気を入れ替える換気量に比べて少なく新型コロナウイルス対策に効果があるかは不明です。

欧州暖房換気空調協会が公表しているガイドラインでは、空気清浄機にも幅があり、それだけに頼るのではなく通常の換気を行うことを推奨。



アメフレックでは、換気や空調設備のご相談を承っております。

政府が避けるよう注意喚起する3つの「密」

厚生労働省チラシから引用

換気の悪い
密閉空間

多数が集まる
密集場所

間近で会話や発声をする
密接場面

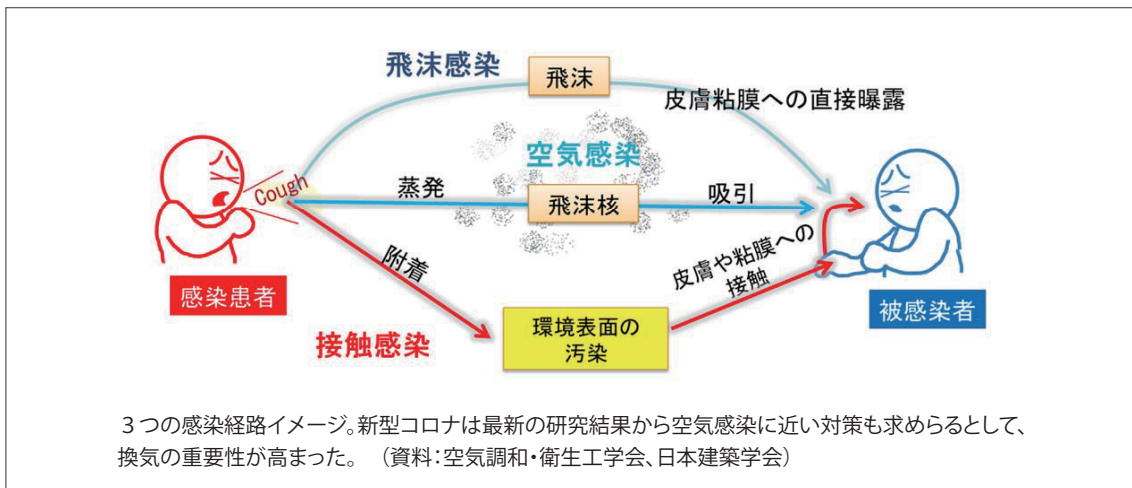
3つの条件がそろった場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には
消毒などを行ってください。

新型コロナウイルスへの対策として、**クラスター(集団)の発生を防止すること**が重要です。
日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。

感染経路

感染経路の可能性には3つあります(下図参照)。飛沫感染、接触感染、空気感染です。飛沫が蒸発して飛沫核になりますが、結核や麻疹はこの飛沫核でも感染します。これが空気感染です。インフルエンザの場合には非常に小さくなった飛沫核にはほとんど感染力がないといわれているため、感染予防には、主要な感染経路である飛沫感染、接触感染への対策が重要であり、人と人の距離を1~2m程度確保して、手洗いをすることで感染制御が可能になります。



2020年3月17日に米国国立衛生研究所(National Institutes of Health:NIH)傘下の米国アレルギー感染症研究所(NIAID)が新型コロナウイルスのエアゾル化に関する研究結果を発表。
飛沫とは異なり、限定空間内で一定時間浮遊すること、新型コロナウイルスがエアゾル化した後、空中で最低3時間は生き残ると見解を出しています。

